

## あいさつで地域とつながる

～3校合同あいさつ運動～

西部地区の岩沼西小学校、岩沼西中学校、名取高等学校の3校合同であいさつ運動が実施されました。この運動は、あいさつを通して地域の方と積極的に関わろうとすることを目的としています。

当日は各校の生活委員や生徒会の児童・生徒ら約40人が参加し、朝の通学時間帯に西小学校北側の交差点であいさつ運動を行いました。

参加した生徒は「前回参加した時よりも大きな声であいさつをすることができた。あいさつを返してくれる人が多くて気持ち良かった」と話しました。

11/7



▲元気にあいさつが交わされました

## 石巻の文化財を訪ねて

～文化財めぐり～

文化財めぐりが開催され、23人が石巻市を訪問しました。

この事業は、市内外の文化財を広く市民に紹介し、文化財に対する愛護意識の高揚を図ることを目的としています。

10月にリニューアルオープンしたばかりのサン・ファン館やみやぎ東日本大震災津波伝承館を訪問し、現地職員から説明を受けました。

その他にも、石巻市博物館、旧観慶丸商店、大島神社などを散策し、充実した時間を過ごしました。

参加者は「昔の人の知恵に驚いた」「サン・ファン館の大きな地球儀を見て当時の旅路をたどることができた」と話しました。

11/8



▲津波など東日本大震災当時の様子を聞きました

## 文化芸術に触れる

～第35回岩沼市民文化芸術祭～

市民会館・中央公民館で「第35回岩沼市民文化芸術祭」が開催され、1614人が来場しました。

2日間を通して歌やダンス、楽器演奏などの舞台発表、絵画や書道、生け花などの作品展示、お茶の振る舞いなどが行われました。

10日には、駒澤大学高等学校チアリーディング部の演技発表が行われました。音楽や演技に合わせて手拍子が起ると、会場は一体感に包まれました。駒澤大学高等学校教職員・生徒の皆さんからは千年希望の丘整備のための寄付金もいただきました。

11/9～10



▲大迫力の演技を披露しました

## 災害時の連携強化を目指す

～応急給水訓練～

玉浦食彩館の駐車場で、岩沼市管工業協同組合と関係企業の合同による「応急給水訓練」が行われ、約100人が参加しました。

この訓練は、非常時の連携体制の構築と災害対応力の向上を図ることを目的として実施されました。

市内で災害による断水被害が発生したことを想定し、参加者は緊急用飲料水備蓄タンク（セーフティタワー）の操作方法を確認し、給水車から非常用給水袋へ実際に水を入れ、給水活動の流れを体験しました。東保育所の園児も給水活動に参加し、真剣な様子で関係者の話を聞いていました。

11/13



▲給水活動を体験する東保育所の園児

11/15



▲パッケージイラストを作成した  
須藤千陽さん（岩沼北中）

**地元の魅力を再発見**  
「岩沼産りんごゼリー」  
市内小・中学校の給食で、長岡地区のりんごを使ったゼリーが提供されました。  
地元で採れた食材を使用する地産地消と郷土愛の育成を目的として、令和3年度から岩沼産りんごゼリーの提供が行われています。  
りんごゼリーのパッケージは市内中学校からイラストを募集し、16作品の中から最優秀賞に選ばれたものです。  
イラストを作成した須藤さんは「りんごと言えば赤色。赤色は元気なイメージがあり、女の子を元気に描くことで食べた人が元気になってほしいという思いを込めて描いた」と話しました。

11/20



▲中島選手と一緒にボールを追いかけてました

**サッカーを通して交流**  
「ベガルタ仙台地域交流活動」  
東児童館で「ベガルタ仙台ホームタウン応援団（※）」の活動の一環として、ベガルタ仙台地域交流活動が行われ、児童館に通う小学1年生3年生の児童約40人が参加しました。  
ベガルタ仙台の主力選手として活躍する中島元彦選手と、ミニゲームや質問コーナーなどで楽しい時間を過ごしました。  
参加した児童全員にステッカーとサインがプレゼントされ、喜びの声が上がりました。  
※県内全35市町村をホームタウンとするベガルタ仙台が、各市町村に寄り添った活動を展開するために結成した応援団。

11/22



▲和やかな雰囲気ワークショップが行われました

**自らの力を発揮できる職場環境をつくるために**  
「男女共同参画推進研修」  
市役所で「令和6年度宮城県・岩沼市共催 男女共同参画推進研修」が開催されました。  
この研修は、男女共同参画社会の実現を目指し、市町村における男女共同参画施策の推進を図ることを目的として実施されました。  
研修では、仙台市母子家庭相談支援センターの川端千尋所長を講師に迎え、セクシュアルハラスメント、マタニティハラスメント、パワーハラスメントの定義などを学びました。ワークショップでは、具体的な事例を基に相互の意見を交換しました。  
参加者は「相手を思いやる気持ちが大切だということを再確認できた」「今後のコミュニケーションに生かしていきたい」と話しました。

12/1



▲すてきな歌声が会場に響きました

▼外国人住民によるスピーチ



**外国の文化を体験**  
「第4回ございんWАНUМАワールドフェス」  
JОCА東北で「第4回ございんWАНUМАワールドフェス」が開催されました。  
このイベントは、地域住民と外国人住民の相互の理解促進や交流を目的として開催されました。  
会場では、ゴスペルやサルサなどの音楽。パフォーマンスが行われたほか、浴衣の試着や書道など、参加した外国人が日本文化を楽しみました。外国人住民による日本語のスピーチでは、故郷と岩沼での生活の違いや、岩沼にあったらいいものなどが発表されました。  
参加者は「普段触れることのない文化を知る機会になった」と話しました。